佐渡宮大工 間島家とその建築活動について

THE SOURCE AND BUILDING ACTIVITY ABOUT THE MAJIMA FAMILY OF CARPENTER SPECIALIZING IN BUILDING SHRINES AND TEMPLES IN SADO ISLAND

奥崎智道 — * 1 藤澤 彰 — * 2
田束 優 — * 3 赤石憲祐 — * 4

Tomomichi OKUZAKI — * 1 Akira FUJISAWA — * 2
Yu TADUKA — * 3 Kensuke AKAISHI — * 4

キーワード：
佐渡島, 間島家, 大工史料, 建築活動

Keywords:
Sado island, The Majima family, Carpenter archives, Building activity

We study about source and building activity about the Majima family of carpenter specializing in building shrines and temples in Sado Island. It was based on a historical records owned by the Majima family and a historical records related of those.
The purpose of this study is to accumulate information precise.

1. はじめに

間島家は、佐渡島(新潟県佐渡市)の沢根五十里に居住し、文化年間頃(1804~18)から昭和 40 年頃(1965)までつづく大工の家系であった。間島家所蔵史料および分家である間嶋喜蔵家^(注1)所蔵史料と^(注2)、間島家が造営、修繕した社寺に残る史料、末裔^(注3)や弟子^(注4)と縁のある大工職人^(注5)に対するヒアリング調査から、間島家が間島喜平次家から分家したことに始まり、沢根五十里^(注6)を拠点に活動、宮大工、彫刻師として4代続き、代々「奎太郎」を襲名、そして、分家が派生、多くの弟子を育成し、近代においては「奎三屋」という屋号を名乗り^(注7)、大工業を営んでいたことが明らかとなった。近年、間島家所蔵史料の存在が確認でき、整理、分類を継続的に行っている^(注8)。その中に、間島家の由来を示す史料、普請に関する史料がある。一方、間島家所蔵史料との関連を示唆する史料が佐渡以外の地域の大工家に伝わっており、具体的な検証を行うことができる。

間島家については地誌^(注9)に記載があるが、信憑性に欠けており、系譜を把握し、その活動を総括するには至っていない。本稿では、間島家所蔵史料および間島家の遺構に対する悉皆調査から得られた情報をもとに、間島家の系譜と建築活動について明らかにする。

2. 間島家の系譜

2-1. 間島家の出自

初代が生まれた間島喜平次家は、屋号を「豆腐屋」といい、代々喜平次を襲名する^(注10)。間島喜平次家所蔵の間島喜平次家の来歴を記した史料^(注11)と、「間島家系図」と題され、初代から8代目までの系図をまとめた史料^(注12)、そして、間島喜平次家の墓に彫られる、「間島氏墓誌」と題した墓誌^(注13)によると、以下のことがわかる。

- ・ 間島喜平次家は、初代が本間家^(注14)と矢島家^(注15)の姓からそ

れぞれの一字を取って間島姓を名乗った事に始まる。沢根城之下(現、佐渡市沢根五十里)に住む矢島家の長女が家宅を譲り受けて分家、炭屋町(現、佐渡市沢根炭屋町)に居住し、本間家から伴侶を迎えて一家を建てて間島姓を名乗った^(注16)。

- ・ 2代目は、初代の次男の伊七郎が相続した。
- ・ 3代目は、2代の長男の喜平次が継いだ。その弟の奎太郎は分家して一家を構え、彫刻師として有名であった。
- ・ 4代目は、3代の長女である喜与が羽茂の酒川家から婿を取って継ぎ、大工業を営んでいた。

「間島家系図」には、いくつか誤りがあるが^(注17)、総じて検討すると、間島喜平次家の家系は、2代目が伊七郎、3代目と4代目が喜平次、5代目が喜久蔵を名乗り、3代目の喜平次から5代目の喜久蔵までが農業と大工職、それ以後は大工職を継承していないことがわかる。ここでは、初代と2代目の職業は不明となっているが、本光

図1 間島喜平次家および間島奎太郎家系図
(間島家所蔵史料および間島喜平次家所蔵史料をもとに作成)

*1 芝浦工業大学大学院工学研究科博士(後期)課程 地域環境システム専攻・修士(工学)
(〒135-0061 東京都江東区豊洲3-7-5)
*2 芝浦工業大学工学部建築学科 教授・工博
*3 岩瀬建築(有) 技術員・修士(工学)
*4 京都府教育庁指導部文化財保護課 技師・修士(工学)

*1 Graduate Student, Graduate School of Engineering, Shibaura Institute of Technology, M. Eng.
*2 Prof., Dept. of Architecture, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.
*3 Technical Engineer, Iwase Architects Ltd. Company, M. Eng.
*4 Engineer, Cultural Properties Protection Section, Kyoto Pref. Board of Education, M. Eng.

寺(佐渡市沢根籠町)^(注18)に残る、「本堂建立旦中志」〔天明元・1781年〕^(注19)の「大工衆人別覚」の項に、「棟梁番匠/五十里/喜平次/籠町/重四郎/番匠衆覚/西野村/茂兵衛…略…五十里/伊七郎」と棟梁番匠が2名、番匠衆が13名記されており、棟梁番匠として五十里の喜平次、番匠衆の中に五十里の伊七郎の名が見られる。天明元年は、3代目以前の代が活動する時期と考えるべきで、ここでの喜平次は初代、伊七郎は2代目と考えられる。したがって、間島喜平次家は初代から5代目にかけて大工業を営む家系であったと考えられ、初代間島杢太郎は、間島喜平次家2代目の次男として生まれ、分家したことがわかる(図1)。

2-2. 初代間島杢太郎についての伝承と関連史料

間島家には、初代杢太郎が文化年間に江戸に出て、日光東照宮五重塔(文政元・1818年)の再建中に若狭藩用達の棟梁である大久保喜平治に規矩術を、彫刻師である島村勘六に彫刻技術を学び^(注20)、満期を迎えて帰郷したという伝承が残る^(注21)。間島家所蔵史料の中に、この伝承を裏付ける史料がある。

再建された日光東照宮五重塔を描いた「献備五重御塔建地割下繪圖」(写真1、以下、間島家本)は、構造形式および細部の仕様が、実物と一致しており、記載される寸法は実寸法と近似する。また、左下に「文政寅年/武州江戸住/棟梁/大久保匠/門人/佐州住/間島杢太郎/臨寫之」と書かれ、文政元年に描いたこと、棟梁が江戸に住む大久保匠であること、佐渡に住む間島杢太郎が写したこと、間島杢太郎は大久保匠の門人であることが示されている。この建地割図は五重塔再建の上棟後に写されたものである。また、五重塔再建は、若狭藩用達の江戸神田の大工大久保喜平治が惣棟梁を担当しており、大久保匠は大久保喜平治に合致する^(注22)。

間島家には計14点の大工書が所蔵されており、そのうち5点に奥書があり、9点に番号が振られている。大久保喜平治伝来であることを明示するものは奥書のある5点で、いずれも記載内容を示す題目と共に番号が記され「主/間嶋杢太郎」と署名があり、奥書に、「右工術指南勢し免一ト巻傳進申候/文化十二乙亥年十二月吉日/匠/間嶋善吉殿」と記され、大久保喜平治を示す「大久保」「延治」と読める角印がある(写真2、表1)^(注23)。

2-3. 佐渡以外の地域の大工に伝わる史料との関連性

(1) 甲良家伝来「献備五重御塔建地割下繪圖」

再建された日光東照宮五重塔に係する建地割図は、他にも確認できる^(注24)。中でも甲良家伝来の史料で、甲良若狭棟全^(注25)により描かれた「下野日光山/献備五重御塔建地割下繪圖」(東京都立中央図書館蔵、以下、甲良家本)^(注26)は、間島家本と近似している。

2つの建地割図を比べると、筆跡が異なり、甲良家本のほうが、記載情報が多い。中には、項目の記載箇所が異なる部分、同じ記述が書かれる箇所において記載内容は類似しているものの、漢字・仮名の用法にばらつきが見られる部分がある。したがって、異なる人物によって記されたことがいえる。甲良家本は情報の記載が丁寧で、間島家本は部材の名称や材質などの記載がやや少なく、建築に関する情報を必要最低限に収めて記していると考えられる。しかし、寸法が間島家本に書かれ、甲良家本にない箇所もある。

(2) 佐渡以外の地域の大工に伝わる大久保喜平治伝来大工書

大久保喜平治伝来の大工書は、他に秋田県立図書館所蔵の9点、東京国立博物館所蔵の7点が確認できている(表2)^(注27)。秋田県立

図書館所蔵のものは、秋田藩御大工戸崎家旧蔵の文書^(注28)であり、東京国立博物館所蔵のものは、全18冊構成で「門外十七種」の登録名がつけられているもので、そのうちの7冊である^(注29)。11代戸崎知重が「文化11~12年(1814~15)、文政5~7年(1822~24)の間、江戸に滞在していたことが確認できる。この江戸滞在中に幕府大棟梁平内氏や神田の大工大久保氏から種々の技術書を伝授されている」としている^(注30)。そして、「門外十七種」「三之巻」「五之巻」「工術拔書」は、「文化・文政頃に大久保喜平治によって著わされ、このうちの一部が、当時江戸留学中の戸崎知重の手に渡ったものと考えられる。」としている^(注31)。「門外十七種」は、第4冊、第6冊、第7冊、第10冊、第11冊、第13冊の冒頭に「喜平治之図」と記され、

写真1 間島家所蔵「献備五重御塔建地割下繪圖」
左：全体 中：右上墨書 右：左下墨書

写真2 間島家所蔵大工書「三軒匠」 左：全体 中：奥書 右：角印
表1 間島家所蔵大工書一覧

題名	年代	番号	備考
1 三軒 匠	文化12年(1815)	〇一	奥書:「右工術指南勢し免一ト巻傳進申候/文化十二乙亥年十二月吉日/匠/間嶋善吉殿」、「大久保」「延治」の角印あり
2 扇垂木 匠	文化12年(1815)	〇二	奥書:「右工術指南勢し免一ト巻傳進申候/文化十二乙亥年十二月/匠/間嶋善吉殿」、「大久保」「延治」の角印あり
3 出組 匠	文化12年(1815)	〇三	奥書:「右工術指南勢し免一ト巻傳進申候/文化十二乙亥年十二月/匠/間嶋善吉殿」、「大久保」「延治」の角印あり
4 組物三手先 匠	文化13年(1816)	〇四	奥書:「右工術指南勢し免一ト巻傳進申候/文化十三丙子年十二月吉日/匠/間嶋善吉殿」、「大久保」「延治」の角印あり
5 絵様 匠	文化13年(1816)	〇五	奥書:「右絵様一ト巻傳進申候/文化十三丙子年十二月吉日/匠/間嶋善吉殿」、「大久保」「延治」の角印あり
6 組物		〇十	
7 欄間絵様形		〇十二	
8 一軒垂割之傳		〇十三	巻頭に「軒週欄割一軒傳」とあり
9 建地割			巻頭に「佐渡郡五十里町/間島杢太郎/重物」とあり
10 三ツ斗破風圖			
11 二軒棟木棟割値			
12 花表形			
13 武家鑑形			
14 門鑑形		〇三	

表2 佐渡以外の地域の大工に伝わる大久保喜平治伝来大工書一覧

史料名	年代	備考	所蔵元
1 一之巻上下	二之巻上	巻頭:「大久保」、巻末:「大久保」「延治」の角印あり	秋田県立図書館
2 二之巻下	二之巻下	巻頭:「大久保」、巻末:「大久保」「延治」の角印あり	
3 三之巻上・下絵圖二葉流	文化・文政(1810~1829)頃		
4 五之巻	文化・文政(1810~1829)頃		東京国立博物館
5 六之巻	文政6年(1823)	奥書:「文政六年/末三月初旬/大久保喜平治伝来 知重(花押)」	
6 工術拔書	文化・文政(1810~1829)頃	巻頭:「大久保」、巻末:「大久保」「延治」の角印あり	
7 矢根絵様	文化11年(1814)頃	巻頭:「大久保」、巻末:「大久保」「延治」の角印あり	
8 窓形		巻頭:「大久保」、巻末:「大久保」「延治」の角印あり	
9 社宮集		巻頭:「大久保」、巻末:「大久保」「延治」の角印あり	
10 第1冊			
11 第2冊			
12 第3冊			
13 第4冊	文化11年(1814)	目録冒頭に「トリイ/花表/喜平治之図」	
14 第5冊			
15 第6冊	文化11年(1814)	目録冒頭に「喜平治之図」	
16 第7冊	文化11年(1814)	目録冒頭に「喜平治之図」	
17 第8冊			
18 第9冊			
19 第10冊	文化11年(1814)	目録冒頭に「宮社/喜平治之図」	
20 第11冊	文化11年(1814)	目録冒頭に「喜平治之図/和様唐様三手先料繪」	
21 第12冊			
22 第13冊	文化11年(1814)	冒頭に「家様圖/喜平治之図」	
23 第14冊			
24 第15冊			
25 第16冊	文化11年(1814)	奥書:「右工術指南勢し免一ト巻傳進申候/文化十一甲戌年四月吉日/匠/八木又三郎様」、「大久保」「延治」の角印あり	

第16冊の奥書に「右工術指南勢し免一ト巻傳進申候/文化十一甲戌年四月吉日/匠/八木又三郎様」とあり、「大久保」「延治」と読める角印がある。したがって、この大工書は、八木又三郎^(注32)が文化11年に大久保喜平治から授かったものと考えられる。

以上の大工書を間島家所蔵の大久保喜平治伝来大工書と比較すると、筆跡が異なり、間島家所蔵の「扇垂木 匠」(表1-2)は、戸崎家旧蔵の「二之巻 上」(表2-1)と「二之巻 下」(表2-2)を合わせた内容になっており、間島家所蔵の「出組 匠」(表1-3)は戸崎家旧蔵の「五之巻」(表2-4)と、間島家所蔵の「組物三手先 匠」(表1-4)は戸崎家旧蔵の「三之巻上中下絵図二葉流」(表2-3)、東京国立博物館所蔵の「門外十七種(第11冊)」(表2-20)と類似した内容になっている。記載内容が類似するものの、同じ記述部分で漢字・仮名の用法にばらつきがあり、項目の記載順序が異なる。したがって、これらの大工書は同じ原本を異なる人物が書き写した可能性が考えられる。また、これらにある奥書は、文面や書き方、角印の位置が間島家所蔵の大久保喜平治伝来大工書の奥書と類似している。なお、戸崎家旧蔵文書の中には、大久保喜平治伝来の日光東照宮五重塔を描いた建地割図^(注33)があり、日光東照宮五重塔に関係する建地割図と大工書が、間島家と戸崎家にそれぞれ伝わっている。

3. 間島家の建築活動

表3は、間島家の活動を年代順に並べたもので、建築の普請に番号を付けた。初代と2代目は、(a)棟札や(f)地誌に示される年代順に、3代目と4代目は、間島家所蔵の履歴や経歴に関する史料^(注34)を基に、(a)棟札や(b)墨書から判明した年紀を優先に年代順に並べた。また、役職については、間島家所蔵の履歴や経歴に関する史料と(a)棟札に示される名称を抽出した。

3-1. 史料に示される普請活動

間島家所蔵の履歴や経歴に関する史料には、2代目が関与した4件、3代目が関与した63件、4代目が関与した23件があげられている。また、建築の普請に係る史料が60件72棟について残っており、社寺建築に係る史料50件62棟、一般住宅に係る史料7件7棟、公共建築3件3棟で、そのうち新築51棟、修理・修繕21棟である。これらが示す建築は現存するものが多く、史料と建物を比較対照することができる。真野宮社殿(表3-30)、本興寺本堂(表3-37)、三宮神社拝殿(表3-38)、松前神社拝殿(表3-45)、妙宣寺大玄関・廊下(表3-48)、同宝蔵(表3-51)、法幢寺本堂(表3-57)、大山祇神社社殿(表3-58)、赤井神社社殿(表3-73)、塩釜神社社殿(表3-77)、佐渡護国神社社殿(表3-78)などの建物については、図面、材木帳、仕様帳、帳面、人工表、大工出面表など多種多様の史料が残る。また、造営における日々の仕事を記した3代目の日記帳^(注35)があり、詳細に把握することができる。そして、社寺に残る史料から、初代1棟、2代目5棟、3代目20棟、4代目3棟の普請に関与していることが確認できる。

以上から、間島家の活動を整理すると、初代が5件、2代目が11件、3代目が76件、4代目が31件の、総計104件の普請をあげることができ、そのほとんどが、社寺建築の普請である。そのうち、96件について間島家の関与を確認することができる^(注36)。

3代目は、初代と2代目に比べて、確認できる普請の件数が多く、新築のみならず、改築、改修の仕事も行っている。大正3年(1914)

に、佐渡郡主催の建築講習会^(注37)を受講して、一般住宅の技術・技能を学んでおり、昭和15年(1940)に三井松五郎大住宅新築(表3-67)に従事している。また、大正6年(1917)の真野宮社殿新築(表3-30)をはじめに、度津神社本殿・弊殿・玉垣新築、その他改築(表3-52)、佐渡護国神社社殿新築(表3-78)、新潟県護国神社社殿新築(表3-80)など内務省神社局・神祇院の下で行われた造営事業に従事している。そして、昭和14年(1939)に、日本各地の社寺を視察している。

3-2. 活動期間

佐渡における間島家の活動は、地誌によると文政12年(1829)の孔子聖堂新築(表3-2)から始まったとされるが、棟札によると安政5年(1858)の石動神社本殿新築(表3-4)が確証のある最初のものとなる。2代目の活動は、明治14年(1881)の白山神社本殿新築(表3-6)から明治38年(1905)の禅長寺本堂新築(表3-13)まで確認でき、ほとんどが新築である。3代目の活動は、明治27年(1894)の大山祇神社本殿新築(表3-10)から昭和28年(1953)の善宗寺鐘楼新築(表3-87)まで確認でき、新築のみならず改築、改修が多い。4代目の活動は、昭和9年(1934)の常德寺庫裡改築(表3-55)から昭和41年(1966)の二宮神社社殿新築(表3-104)まで確認できる。それ以降、間島家の活動は確認できず、大工業として終焉を迎えている^(注38)。

3-3. 役職

初代は、地誌によると孔子聖堂新築(表3-2)において設計と棟梁を担当し、本光寺大門新築(表3-3)では彫刻を作製したとされるが、唯一、石動神社本殿新築(表3-4)に、「大工」として従事していることが確認できる。2代目は、白山神社本殿新築(表3-6)で、2名の地元大工と共同で「工匠」とされ、そのうち1人は弟子である。また、羽黒神社本殿新築(表3-7)では、2名の地元大工と共同で「棟梁」をつとめている。熊野神社本殿新築(表3-8)では「棟梁大工」と「脇棟梁」を地元大工がつとめているのに対し「彫刻工」を、大山祇神社本殿新築(表3-10)では「棟梁」を地元大工がつとめているのに対し「後見」となっている。そして、居住する沢根五十里から遠く離れた赤泊で禅長寺本堂新築(表3-13)を行い、地元出身である弟子と共同で「棟梁」をつとめている。3代目は、大山祇神社本殿新築(表3-10)で「大工」を、禅長寺本堂新築で「彫工」「施工主任」をつとめ、以後、ほとんどの普請で「設計士」「棟梁」「監督」「施工主任」についている。中には、「彫刻」「彫師」や「後見」を担う普請も見られる。特に内務省神社局・神祇院の下で行われた真野宮社殿新築(表3-30)において、「棟梁」をつとめていることは重要である。3代目は設計から施工、彫刻に至るまでの技術・技能を習得していたようである。

3-4. 活動地域

図2は、初代から3代目の島内における活動地域を示したもので、その分布を示す番号は、表3の普請に付けた番号と対応する^(注39)。

初代、2代目は居住地である沢根五十里近域、外海府沿岸での活動が確認でき、3代目になると現在の国道350号線沿いと65号線沿いに活動が見られるようになり、序々に活動範囲を広げ、昭和になると両津湾沿岸から佐渡南部まで広がって、島内全域におよんでいる。初代は、確認できる活動が居住地から近い沢根竈町と外海府沿岸にある後尾のみで、不明である。居住地から離れた後尾で活動していることは興味深い。2代目の活動地域は、居住地から近い沢根町、そして、範囲を広げて二宮や中原、さらに広げて相川市街地で

ある相川羽田町、外海府沿岸まで広がっている。

また、赤泊まで遠出する事例が確認できる。初代に続いて居住地である沢根五十里近域と外海府沿岸で活動が確認できる。そして、遠く離れた赤泊で活動している。3代目の活動地域は、明治から大正頃にかけての時期は、居住地から少し離れた市野沢や窪田、真光寺、中原、さらに範囲を広げて、相川市街地に近い相川下山之神、外海府沿岸にある北鶴島、関、小野見、二見沿岸にある相川大浦、稲鯨、さらに広げて、国中平野の中央に位置する中興、千種で活動が見られ、昭和になると、玉崎、椿、加茂歌代などの両津湾沿岸、そして、下久知や松ヶ崎、浜河内、羽茂飯岡、西三川、下川茂など佐渡南部まで広がっている。さらに、昭和20年(1945)に新潟県護国神社社殿新築の普請を行っており、新潟県本土での活動が確認できる。

4. まとめ

これまで述べた内容により、以下のことが明らかとなった。

- 1) 間島家は、江戸後期から5代にわたり大工を継承する間島喜平次家から分家した家系である。間島喜平次家の初代と2代目は、社寺建築を手がける大工であった。
- 2) 初代は、再建された日光東照宮五重塔とその惣棟梁である大久保喜平治に関係する史料を所持している。そして、自らを大久保喜平治の門人と称している。
- 3) 「献備五重御塔建地割下繪圖」は、再建された日光東照宮五重塔を描いたもので、甲良若狭棟全のもとで描かれた「下野日光山/献備五重御塔建地割下繪圖」と近似している。
- 4) 佐渡以外の地域の大きに伝わる大久保喜平治伝来の大工書が、間島家にも伝わっている。
- 5) 佐渡における間島家の建築活動は、4代にわたる約140年間で、総計104件におよぶ普請があげられる。
- 6) 初代から3代目までの建築活動は、ほとんどが社寺建築の普請である。3代目は、新築のみならず改築、改修の仕事も行っている。また、一般住宅に関わる技術・技能を備えていたようで、一部に一般住宅の仕事も見られる。4代目になると一般住宅の仕事が多くなる。
- 7) 初代、2代目、3代目と、普請における中心的で重要な役職をつとめており、彫刻を専門とした事例も見られる。

表3 間島家各代の活動一覧

番号	和暦	西暦	建物名及び施工内容	所在地	典拠	役職
初代	2 文政元年	1818	日光東照宮五重塔再建	栃木県日光市	(a)、(f)、(g)	
	2 文政12年	1829	孔子堂新築(現存せず)	相川広開町	(f)、(g)	
	3 弘化3年	1846	本光寺大門新築	沢根五十里	(f)、(g)	
	4 安政5年	1858	石動神社本殿新築	後屋	(a)、(f)	大工
	5 年代不詳		本福寺樓門新築(現存せず)	沢根五十里	(f)、(g)	
2代目	6 明治14年	1881	白山神社本殿新築	南片辺	(a)、(f)	工匠
	7 明治15年	1882	野黒神社本殿新築	北片辺	(a)、(f)	彫師
	8 明治22年	1889	鹿野神社本殿新築	戸中	(f)	彫刻工
	9 明治23年	1890	下山ノ神東照宮新築(現存せず)	相川下山之神町	(f)	
	10 明治27年	1894	大山祇神社本殿新築	戸中	(a)、(f)	後見
3代目	11 明治29年	1896	恵得寺唐門新築	沢根町	(a)、(f)	
	12 明治29年	1896	二宮神社本殿改築、幣殿拝殿新築	二宮	(a)、(f)	
	13 明治30年	1897	康永寺本堂新築	赤泊	(a)、(g)、(f)	棟梁
	14 年代不詳		康永寺本堂新築	相川羽田町	(a)、(f)、(g)	
	15 年代不詳		北野神社本殿改築	沢根五十里	(a)	
4代目	10 明治27年	1894	大山祇神社本殿新築	戸中	(a)、(f)	大工
	11 明治29年	1896	恵得寺唐門新築	沢根町	(a)、(f)	
	12 明治29年	1896	二宮神社本殿改築、幣殿拝殿新築	二宮	(a)、(f)	
	17 明治31年	1898	康永寺本堂大修理	相川羽田町	(a)	
	18 明治32年	1899	奥通院本堂庫裡新築	中原	(a)、(f)	設計士、副棟梁、施工主任
5代目	19 明治37年	1904	東照宮本堂改築	市野沢	(a)、(f)	設計士、彫刻、監督、後見
	20 明治38年	1905	北鶴島神社本殿新築	西三川	(a)、(g)、(f)	設計士、製作
	20 明治38年	1905	石動神社社殿新築(現存せず)	北鶴島	(a)、(g)	設計士、棟梁、施工主任
	21 明治38年	1905	利濟庵鐘樓新築	椿	(a)	棟梁
	22 明治41年	1908	高濱神社本殿新築	窪田	(a)、(g)、(f)	棟梁
6代目	23 明治41年	1908	二宮神社神門新築(現存せず)	関	(a)	
	24 明治41年	1908	小平神社神庫新造	相川大浦	(a)	設計士、製作
	24 明治43年	1910	中興院本堂庫裡新築(現存せず)	中興	(a)、(f)	設計士、棟梁、施工主任
	25 大正元年	1912	大山祇神社本殿改築	相川下山之神町	(a)、(f)	
	25 大正元年	1912	中興神社神庫新造	中原	(a)	設計士、製作
7代目	25 大正2年	1913	村上神社拝殿新築	真光寺	(a)、(g)、(f)	設計士、監督、後見
	26 大正2年	1913	寒村寺玄閣新築	市野沢	(a)	設計士、棟梁
	27 大正3年	1914	北野神社神門新築	稲鯨	(a)、(g)	設計士、棟梁、彫師
	27 大正3年	1914	佐渡郡主催、建築講習会受講		(a)	一般住宅の技術・技能を学ぶ
	28 大正4年	1915	大山祇神社社殿新築	相川下山之神町	(a)、(f)	設計士、彫刻、監督、後見
8代目	29 大正5年	1916	高濱神社本殿改築	窪田	(a)、(f)	設計士、棟梁、監督
	30 大正5年	1917	真光寺社殿新築	貴野	(a)、(f)	棟梁、施工主任
	31 大正6年以前～1917		小平神社社殿新築	大浦	(a)	
	32 大正9年	1920	熊野神社社殿改築、覆屋幣殿新築	千種	(a)、(g)、(f)	設計士、大工棟梁、施工主任
	33 大正9年	1920	熊野神社社殿改築	小野見	(a)、(g)、(f)	設計士、大工棟梁、施工主任
9代目	34 大正10年	1921	熊念寺唐門新築	沢根原屋町	(a)	大工棟梁
	35 大正10年	1921	金北山神社(金北山頂社)社殿新築	金井新保	(a)、(f)	設計士、棟梁、施工主任
	36 大正10年	1921	内照寺に玄門移築及び改修	真光寺	(a)、(f)	設計士、棟梁
	37 大正11年	1922	本興神社本殿改築	西三川	(a)、(g)、(f)	設計士、製作
	38 大正13年	1924	三宮神社社殿新築	三宮	(a)、(f)	設計士、監督、後見
10代目	39 大正13年	1924	河内神社社殿新築	浜河内	(a)	設計士、監督、後見
	40 大正13年	1924	広平寺太子堂新築	宮川	(a)	
	41 大正14年	1925	長福寺(談義所)乙和堂神社新築	中原	(a)	設計士、棟梁
	42 大正14年	1925	東照宮本堂改築	千種	(a)、(f)	設計士、大工棟梁、施工主任
	43 大正14年	1925	北興神社本殿改築	中興	(a)	設計士
11代目	44 昭和2年	1927	市野沢神社新築	市野沢	(a)、(g)	設計士、製作
	45 昭和2年	1927	松ヶ崎神社本殿改築、幣殿新築、旧拝殿移築	松ヶ崎	(a)、(g)、(f)	設計士、大工棟梁、施工主任
	46 昭和3年	1928	里宮(金北山神社)神門幣殿改築	真光寺	(a)、(f)	設計士、棟梁、施工主任
	47 昭和4年	1929	白山神社社殿改築	沢根五十里	(a)、(g)、(f)	設計士、監督、後見
	48 昭和5年	1930	妙宣寺大玄閣大廊下新築、庫裡改築	阿佛坊	(a)、(f)	設計士、監督
12代目	49 昭和5年	1930	蔵助神社社殿新築	玉崎	(a)	設計士、監督、後見
	50 昭和5年	1931	石動神社本殿改築、幣殿新築	後屋	(a)、(f)	設計士、監督、後見
	51 昭和7年	1932	寺島神社本殿改築	羽茂飯岡	(a)、(b)、(g)、(f)	設計士、副棟梁、監督
	52 昭和7年	1932	度津神社本殿幣殿五重塔新築、その他改築	羽茂飯岡	(a)	
	53 昭和8年	1933	小布勢神社手洗水屋新築	西三川	(a)	設計士、監督、後見
13代目	54 昭和9年	1934	本光寺本堂改修	沢根町	(a)、(g)、(d)	設計士
	55 昭和9年	1934	常徳寺庫裡改築	相川羽田町	(a)	設計士、棟梁
	56 昭和10年	1935	荒崎神社社殿改築	椿	(a)、(g)	彫刻師
	57 昭和11年	1936	法信寺本堂及玄閣新築	三宮	(a)、(g)、(f)	設計士、大工棟梁、施工主任
	58 昭和12年	1937	山崎神社本殿改築	西三川	(a)、(f)	設計士、監督
14代目	59 昭和13年	1938	西蓮寺本堂改築(現存せず)	中原	(a)	設計士、棟梁
	60 昭和13年	1938	松ヶ崎神社本殿改築	松ヶ崎	(b)	棟梁
	61 昭和14年	1939	妙宣寺五重塔改修	阿佛坊	(b)、(g)	設計士、大工棟梁、監督
	62 昭和14年	1939	善宗寺唐門新築	河原田諏訪町	(a)、(f)	設計士、棟梁、監督
	63 昭和14年	1939	世嘉院庫裡新築(現存せず)	中原	(a)	設計士、棟梁、監督
15代目	64 昭和14年	1939	熊野神社社殿新築	小田	(a)	設計士、監督
	65 昭和14年	1939	東照宮本堂改修	吉井本郷	(a)、(f)	設計士、監督
	66 昭和14年	1939	二見神社本堂改修	二見	(a)	
	67 昭和14年	1939	狸塚(仙台墳墓、日光、東京、名古屋、法隆寺、永平寺、新潟など)		(a)	
	68 昭和15年	1940	三井松五郎大住宅(呉服店)新築	沢根五十里	(a)	設計士、棟梁、監督
16代目	69 昭和15年	1940	山田屋住宅新築	沢根町	(a)	
	70 昭和16年	1941	定福寺唐門新築	椿	(a)、(g)、(f)	設計士、大工棟梁
	71 昭和16年	1941	常念寺本堂新築	河原田本町	(a)、(f)	設計士、棟梁
	72 昭和17年	1942	里宮(金北山神社)拝殿新築	真光寺	(a)、(g)	設計士、監督
	73 昭和17年	1942	二宮神社本殿改築	三宮	(a)	設計士、監督
17代目	74 昭和17年	1942	赤井神社幣殿新築	加茂歌代	(a)	設計士、監督
	75 昭和17年	1942	康永寺本堂新築	沢根五十里	(a)、(f)	設計士、棟梁、総監督
	76 昭和17年	1942	奉安庫(寺院名不明)新築	宮川	(a)	設計士、監督
	77 昭和17年	1942	善知鳥神社社殿新築	相川下戸村	(a)	設計士、監督
	78 昭和17年	1942	塩釜神社社殿末社稲荷神社新築(現存せず)	相川江戸沢町	(a)	設計士、監督
18代目	79 昭和18年	1943	佐渡護国神社社殿新築	千種	(a)、(f)、(g)	棟梁
	80 昭和18年	1943	明治記念堂新築(現存せず)	新潟市中央区	(a)、(f)、(g)	設計士、総棟梁
	81 昭和20年	1945	新潟護国神社社殿新築	新潟市中央区	(a)、(g)	
	82 昭和23年	1948	五所神社社殿新築	下川茂	(a)	設計士、監督
	83 昭和24年	1949	石動神社社殿再建	北鶴島	(a)、(g)	
19代目	84 昭和25年	1950	諏訪神社社殿改築	真	(a)、(f)	設計士、監督
	85 昭和25年	1950	久知正八幡宮社殿新築	下久知	(a)、(f)	設計士、監督
	86 昭和25年	1950	伊藤幸山門修理(現存せず)	阿佛坊	(a)	
	87 昭和27年	1952	蓮華寺本堂改修	新井地方	(a)、(f)	設計士、監督
	88 昭和28年	1953	善宗寺鐘樓新築	河原田諏訪町	(a)	
20代目	89 昭和28年	1953	本光寺本堂改修	宮川	(a)	
	90 昭和29年	1954	常徳寺庫裡改修	相川羽田町	(a)	
	91 昭和30年	1955	荒崎神社社殿改修	椿	(a)、(g)	拝殿彫刻
	92 昭和31年	1956	法信寺本堂及玄閣新築	三宮	(a)、(g)	
	93 昭和32年	1957	西蓮寺本堂改修(現存せず)	中原	(a)	
21代目	94 昭和33年	1958	世嘉院唐門新築	河原田諏訪町	(a)	
	95 昭和34年	1959	世嘉院五重塔改修(現存せず)	阿佛坊	(b)	
	96 昭和34年	1959	妙宣寺五重塔改修	阿佛坊	(b)	
	97 昭和34年	1959	伊藤末吉作業場	沢根町	(a)	設計士、施工主任
	98 昭和34年	1959	新新田歩兵第16師隊入隊		(a)	
22代目	99 昭和38年	1963	除障		(a)	
	100 昭和38年	1963	佐渡護国神社社殿新築	千種	(a)、(f)	
	101 昭和38年	1963	明治記念堂新築(現存せず)	千種	(a)	
	102 昭和38年	1963	明治記念堂新築(現存せず)	新潟市中央区	(a)	化裁附属工事主任
	103 昭和40年	1965	内田伊八作業場	沢根町	(a)	設計士、棟梁、工事主任
23代目	104 昭和41年	1966	伊藤为一作業場	沢根町	(a)	設計士、棟梁、工事主任
	105 昭和41年	1966	伊藤清一住宅	沢根町	(a)	設計士、監督
	106 昭和42年	1967	本間武治住宅	沢根五十里	(a)	設計士、工事責任者
	107 昭和42年	1967	佐渡護国神社社殿新築	千種	(a)	
	108 昭和43年	1968	佐渡護国神社社殿新築	千種	(a)	工事主任
24代目	109 昭和43年	1968	佐渡護国神社社殿新築	千種	(a)	設計士、工事責任者
	110 昭和43年	1968	佐渡護国神社社殿再建	北鶴島	(a)、(g)	設計士、棟梁、監督
	111 昭和44年	1969	伊藤为一住宅	沢根五十里	(a)	設計士、棟梁、工事主任
	112 昭和44年	1969	本間近太郎住宅	沢根五十里	(a)	設計士、監督
	113 昭和45年	1970	久知正八幡宮社殿新築	下久知	(a)	設計士、監督
25代目	114 昭和45年	1970	本間龍司住宅	沢根町	(a)	設計士、工事責任者
	115 昭和45年	1970	諏訪神社社殿改修	真	(a)	設計士、監督
	116 昭和45年	1970	伊藤幸山作業場	八幡	(a)	設計士、監督
	117 昭和47年	1972	石動神社本堂改修	千種	(a)	設計士、工事主任
	118 昭和48年	1973	佐々木豊吉住宅	沢根町	(a)	
26代目	119 昭和48年	1973	伊藤芳男住宅	沢根町	(a)	
	120 昭和48年	1973	真藤周作住宅	沢根町	(a)	
	121 昭和49年	1974	紅葉山春日神社社殿新築	沢根町	(a)	
	122 昭和49年	1974	二宮神社社殿新築	関	(a)	
	123 昭和49年	1974	二宮神社社殿新築	関	(a)	

(a)棟札 (b)墨書 (c)間島家所蔵史料 (d)寺蔵史料 (e)社蔵史料 (f)地誌 (g)ヒアリング

図2 佐渡島における間島家の活動分布図

- 8) 3代目は、大正6年(1917)の真野宮社殿新築をはじめとする中央官庁が関係する造営事業で棟梁をつとめている。
- 9) 間島家の建築活動は、序々に範囲を広げており、昭和になると島内全域におよび、島外で活動する事例も見られる。

間島家は、間島喜平次家から分家し、江戸後期から昭和の中頃にかけて沢根地域に定着しており、社寺建築を造営する大工であった。初代が所持する江戸の大工技術に関する史料は、初代が江戸に修行に出て、大久保喜平治の弟子であったことを示唆している。特に「献備五重御塔建地割下繪圖」は、その伝来経路は不明であるが、幕府直属の官大棟梁である甲良若狭棟梁のもとで描かれた絵図と近似するものであり、地方の大工が容易に入手できるものとは考えがたい。また、大久保喜平治伝来の大工書は、地方の大工に対する技術の伝播の一端を知る上で参考となり、その大工書がいずれも文化11年(1814)から13年(1816)の期間に伝授されている。以上の史料の存在は、初代が佐渡で有力な大工であったことを示している。

社寺建築の普請を中心に行ってきた間島家において、3代目は、新築のみならず改築、改修の仕事も見られ、活動領域が広がる。4代目は、昭和25年(1950)以前は3代目と一緒に社寺建築に従事しているが、そのほかは、一般住宅の仕事がほとんどである。そのため、実質的に社寺建築を専業として活動していたのは3代目までであったと考えられる。江戸後期から近代まで、連綿と社寺建築の普請を中心に活動が続くことは稀有な事例であり、間島家の建築活動の特

徴として挙げられる。また、間島家は、いずれの普請においても中心的な役職についており、現場先の地元の大工職人に認められる存在であったと思われる。中でも、3代目は、設計から施工、彫刻に至るまでの技術・技能を修得していたようである。特に、中央官庁が関係するような、佐渡の近代において重要な普請に棟梁として関わっており、近代の佐渡を代表する大工であったと考えられる

注

- 注1 間島喜蔵の末裔は田中町に住居を構えている。現当主も大工を業としている。間島喜蔵は、分家する際に、間嶋と姓を改めたと伝わる。喜蔵は彫刻師としても知られており、光運と称した。
- 注2 間島家には、過去帳の写し、戸籍の覚書、初代に関する戒名の覚書、分家した間嶋喜蔵家に関する履歴の覚書、弟子を記した「工術指南名留長」などが所蔵される。間嶋喜蔵家には、その系譜をまとめた史料が所蔵される。
- 注3 間島家末裔の須田頼子氏、分家間嶋喜蔵家末裔の間嶋照章氏による。
- 注4 3代目の弟子である梶原忠治氏による。
- 注5 3代目日本人やその弟子と親交があった加藤一馬氏による。
- 注6 沢根五十里は、佐渡島の西側、真野湾に面する海岸沿いにある漁村で近世初頭から金山の開発によって繁栄した相川へと向かう街道沿いにある。『澤根町誌稿 第二輯』(新潟県佐渡郡澤根町公民館, 1951)、『佐和田町史 通史編Ⅲ』(佐和田町史編集委員会, 佐和田町教育委員

- 会, 2001)によると、鋳金家や仏師、彫刻師など芸術に秀でた一族が多く居住した地域とされ、その傾向は江戸後期頃から見られるという。それらはそれぞれに諸職を継承し、分家が派生し、弟子を育て、集団的に定住していたという。間島家もその一事例として挙げられる。宮大工・彫刻師を継承する家系としては、他に明石家も知られている。
- 注7 本稿で「間島家」と記すときは、特に断らないかぎり、近代に杵三屋と称した間島杵太郎家をさす。
- 注8 拙稿「佐渡宮大工間島家所蔵史料について」(日本建築学会大会(関東), 2011)に詳しい。
- 注9 注9 『佐渡名鑑』(高屋次郎著, 佐渡毎日新聞社発行, 1938)、前掲『澤根町誌稿 第二輯』、前掲『佐和田町史 通史編Ⅲ』に、間島家の来歴、初代に関する伝承と、分家、弟子について紹介され、系譜が図示されている。本論に挙げる地誌とは、以上の3つの地誌を指す。
- 注10 現在も沢根五十里に喜平次を襲名する間島家があり、屋号は「豆腐屋」である。また、家大工の家系であったと伝わっている。
- 注11 6代目当主である間島連平が、昭和6年(1931)の64歳の時にまとめたものである。「間島家之墓」に彫られる「間島氏墓誌」にある年次と近く、墓誌の下書きとしてまとめられたものと思われる。
- 注12 初代から8代目まで記される。8代目がまとめたものと考えられる。
- 注13 沢根五十里地域の海岸沿いから内陸に入った場所に位置する。昭和6年に6代目当主である間島連平によってまとめられたものである。
- 注14 本間家については明らかでない。
- 注15 矢島家は、矢島主計(1775～1832)という儒学者、俳人が出た家系として知られる。
- 注16 佐渡では間島姓は少ない。そのほとんどが沢根五十里に居住している佐渡での間島姓の始まりは、間島喜平次家であると考えられる。
- 注17 初代が記されておらず、本来2代目である伊七郎を初代として記している。また、2代目と3代目として記される喜平次は本来の3代目である。また、初代杵太郎は次男であり、幼名を喜三次という名であるが、系譜では次男である喜三次を「豆腐屋隠居分家」、三男の喜三平を「杵太郎分家」と記している。
- 注18 本光寺は、間島杵太郎家の菩提寺である。
- 注19 天明元年(1781)5月から記されており、願主である第7世現住玄忠によって天明3年(1783)に記された本堂建立の際の覚書きがある。
- 注20 間島家所蔵史料の中には彫工島村勘六伝来とされる史料がある。表紙に「画帖/間島俊恒」と書かれ、背表紙に「イカリ/杵太郎」と書かれる。奥書に「文政元戌寅年七月下旬/武江住/彫工/彩雲堂/島村勘六藤原俊矩」と書かれ、2つの角印が押され、そのうち1つは「俊正」と読める。間島家文書の「工術指南名留長」の「諸職人改名/間島杵太郎源俊恒」という記載により、間島俊恒は初代を指すと考えられる。
- 注21 間島家所蔵の「三世間島杵太郎略歴」に、同様のことが記されている。この史料は、昭和29年(1954)1月に作成されており、前掲『澤根町誌稿 第二輯』の発行時期と近く、同一の史料を元にしていていると思われる。
- 注22 構造形式および細部の仕様について、記載される寸法と実寸法との比較など、「献備五重御塔建地割下繪圖」の内容については、拙稿「佐渡宮大工 間島家所蔵「献備五重御塔建地割下繪圖」に関する研究」(日本建築学会大会(北陸), 2010)に詳しい。
- 注23 田東優ほか「佐渡宮大工 間島家所蔵大工書の技術解釈に関する研究」(日本建築学会大会(東北), 2009)に詳しい。
- 注24 拙稿「佐渡宮大工 間島家所蔵「献備五重御塔建地割下繪圖」に関する研究」(日本建築学会関東支部研究発表会, 2009)に詳しい。
- 注25 田邊泰「江戸幕府大棟梁甲良氏に就て」(『建築雑誌』第50号第609号, 1936.2)によれば、甲良若狭棟全は大棟梁を家職とする甲良家10代目の人物で、忌日が明治11年(1878)9月4日である。甲良若狭棟全の経歴や業績など不明な部分が多い。
- 注26 注22参照。
- 注27 大久保喜平治伝来大工書として、「門外十七種(仮題、雑作雛形)」「三之巻」「五之巻」「工術拔書(仮題)」(『日本建築古典叢書第八巻 近世建築書 - 構法雛形』(若山滋, 麓和善編著, 株式会社大龍堂書店発行, 1993年3月31日発行)記載)、「門外十七種(仮題、絵様雛形)」「矢根絵様」(『日本建築古典叢書第九巻 近世建築書 - 絵様雛形』(麓和善編著, 株式会社大龍堂書店発行, 1991年3月3日発行)記載)が確認できている。「門外十七種(仮題、雑作雛形)」「三之巻」「五之巻」「工術拔書(仮題)」は、組物や組方に関する記述が中心となっており、「門外十七種(仮題、絵様雛形)」「矢根絵様」は、絵様に関する記述が中心となる。「三之巻」「五之巻」「工術拔書(仮題)」「矢根絵様」は秋田県立図書館に所蔵、「門外十七種(仮題、絵様雛形)」「門外十七種(仮題、雑作雛形)」は東京国立博物館に所蔵されている。
- 注28 戸崎家旧蔵文書は、永井康雄氏「秋田藩御大工戸崎家文書について」(『東北大学建築学報』第32号, 1993.3)において、「戸崎家文書とは藩政時代を通し代々秋田藩の御大工を勤仕した戸崎家旧蔵の文書」と論じられている。
- 注29 全18冊構成で、第1冊に門の記述があることから「門外十七種」の登録名が付けられている。徳川宗敬氏寄贈。前掲『日本建築古典叢書第八巻 近世建築書 - 構法雛形』では、文化11年(1814)のものとしている。本論では、『日本建築古典叢書第八巻 近世建築書 - 構法雛形』に掲載される部分の内容を資料として用いた。
- 注30 前掲「秋田藩御大工戸崎家文書について」による。
- 注31 前掲『日本建築古典叢書第八巻 近世建築書 - 構法雛形』による。
- 注32 八木又三郎については明らかでない。
- 注33 注28参照。
- 注34 履歴や経歴に関する史料は、前掲「三世間島杵太郎略歴」の他に3代目と4代目、3代目の弟子の高見松蔵に関するものがある。
- 注35 内容は、簡単な図面や参考とした建築のスケッチ図面、技術に関する図、大工の出面、仕様に関するメモなど様々である。
- 注36 表3の、(a)棟札、(b)墨書、(c)間島家所蔵史料、(d)寺蔵文書、(e)社蔵史料からは、間島家の関与を確認することができる。それらから、97件を挙げるができるが、1の日光東照宮五重塔再建については、関係する史料が直接的に関与を示すものとはいえず、除いた。
- 注37 大正3年(1914)7月26日に沢根町役場から通知がきており、開催期間が8月5日から11日までの7日間、開催場所が沢根小学校、講師が東京工業高等学校助教授木曾恕一、東京工業高等学校実習教師佐久間田ノ助である。大正3年8月11日に修了證を授かっている。また、「大正3年/佐渡郡主催/建築講習録/三代間島」と題が付く日誌がある。
- 注38 須田頼子氏より。4代目間島三郎は、昭和40年頃(1965)から大工業から転職し、土産用の紙箱の製作を行っていたという。
- 注39 初代は□、2代目は●、3代目は○で番号を囲っている。4代目は、一般住宅が多く、3代目と重複する普請も多いため省略した。

[2011年10月19日原稿受理 2012年2月17日採用決定]